

創造力と技術力で地域社会を「信頼」で満たし、 関係するすべての人に「幸せ」をもたらす

インタビュー

株式会社富士通四国インフォテック



<https://www.fujitsu.com/jp/group/fsit/>

〒760-00172 香川県高松市番町1丁目10番地2

- ・事業内容：システムインテグレーション、パッケージソフト/クラウドサービス、ICT機器・ソリューション販売、DX支援サービス
- ・資本金：5,000万円
- ・設立：1968年4月25日



富士通グループの存在意義（パーパス）と当社の理念

香川県高松市に本社を置く富士通四国インフォテック株式会社は、1968年創業時「株式会社高松電子計算センター」という会社名からスタートしました。

事業分野は「公共分野」「ヘルスケア分野」「産業・流通分野」などであり、主な事業内容としては「システムインテグレーション」「ICT機器・ソリューション販売」「パッケージソフト/クラウドサービス」「DX支援サービス」等を行っています。

富士通グループの社会における存在意義（パーパス）は、「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていくこと」です。グループの一員としてこれを羅針盤に「One Fujitsu」として取り組んでいます。そして富士通四国インフォテックでは、四国を中心とした地域のより豊かな社会作りに貢献する企業として「創造力と技術力で地域社会を「信頼」で満たし、関係するすべての人に「幸せ」をもたらす」という大きな理念を掲げています。

富士通四国インフォテックでは、業務に特化したいろいろなソリューションやサービスを展開していますが、特に「Documal」は全国展開しており多くのお客様に愛用されている製品となっています。

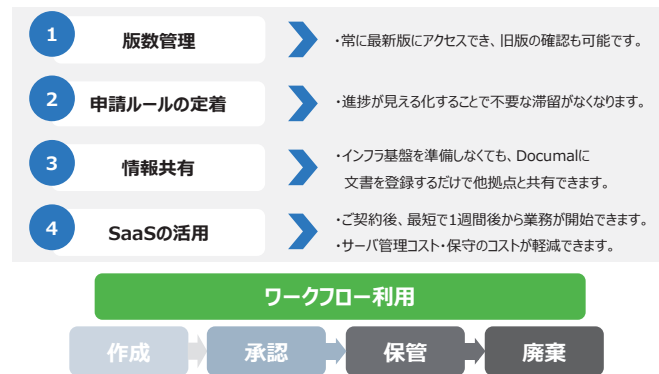
お客様の声を聞き、お客様に寄り添いながら進化し続ける「Documal（ドキュマル）」

「Documal」のはじまりは今からちょうど30年前の1994年、品質マネジメントシステムの仕組みづくりへ対応した「ISO文書情報管理システム」として開発・発売されたことに遡ります。そこから「Documal」は、最新環境に対応しながらさまざまな進歩を遂げ、2009年まではオンプレミスで提供されていました。しかし、クラウド上で使用できるサービスの需要が増したこともあり、2009年から2011年にかけてSaaSビジネスに移行しました。現在は安価にそして手軽にお使いいただけるパブリックSaaSと、お客様専用環境のプライベートSaaSという2種類のSaaSビジネスを展開しています。

「Documal SaaS」を進化させていく中で電子帳簿保存法の改正があり、また今回の改正でも「Documal SaaS」を電子帳簿保存法に対応していないといけないということから、JIIMA認証を取得しました。

JIIMAの電子取引ソフト法的要件認証を取得した「Documal SaaS」は、単純な文書管理システムというだけではなくワークフロー機能を組み合わせた点がポイントになっています。実際、文書管理というよりはワークフローシステムとしての意味合いが強く、お客様の業務の効率化を支援する点に重きをおいています。

Documal SaaSのポイント



© 2024 Fujitsu Shikoku Infotec Limited

「Documal」の利用により社内全体のワークフローの効率化をはかることができる

一方、姉妹製品としてリリースした「Documal-Drive SaaS」は必要最小限の機能に絞ったシンプルなクラウドストレージサービスで、使いやすさと運用負担の軽減が主な特長です。これは、利用者に求められている機能に特化することで複雑なセキュリティ設定漏れを無くし、全体的なセキュリティリスクを低減します。なにより「Documal-Drive SaaS」のコンセプトである「コンパクトに運用を楽に」を実感できます。多機能であるがゆえの使用の複雑さを極力なくし、特化された機能を優先させることで使いやすさを重視しているのが「Documal-Drive SaaS」になります。

富士通四国インフォテックでは製品を利用いただいているお客様の皆様に定期的にアンケートを実施し、ご質問やご要望を伺っています。また、サポートについても意見を伺っており、時には厳しいご指摘もありますが、サービスの品質向上のために真摯に対応しています。そしてその中から優先度の高い意見を

取り入れ、次期クラウドサービスのエンハンスにもつなげています。

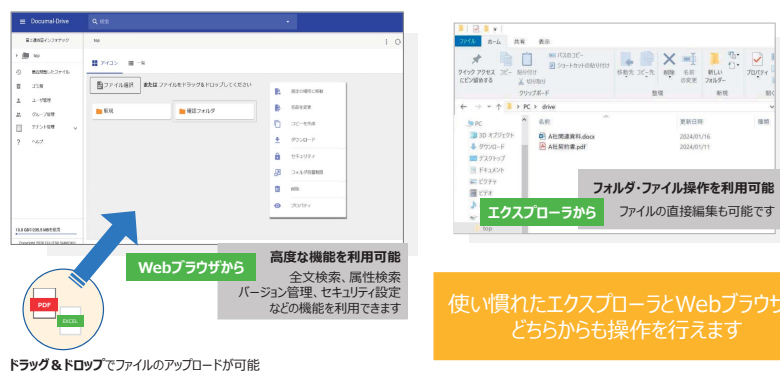
アンケートの中には機能追加のご要望もありますが、時代とユーザーのニーズ、そして操作性を追求してきた結果、必要な機能は取捨選択できたと考えています。また、最近は文書管理の機能が一定の成熟を見せているのではないかと考えており、「Documal-Drive」というクラウドストレージサービスの次世代製品については、UX（ユーザー体験）をどう改善していくのが今後の課題となっています。

JIIMAへの入会と期待

JIIMA認証を取得した際に、今後の電子帳簿保存法への対応も見据え、JIIMAに入会しました。

新しい文書管理の未来を描き自社製品を育てていく上でも、

Documal-Driveのポイント



© 2024 Fujitsu Shikoku Infotec Limited

「Documal-Drive SaaS」では、直感的に操作可能なUI（ユーザーインターフェース）を搭載している

市場動向の調査は必要不可欠であり、また情報交換する場も会員活動を通じて参加していきたいと考えています。

具体的には、他の会員企業の方々と議論を交わし、ビジネス連携や政策提言するような場にもチャレンジできればと期待しています。

特に情報交換という部分では、文書管理の市場が今後どうなっていくのか、他の企業の担当者の皆様と定期的にお話して知見を共有していきたいと考えています。通常の調査では把握しきれない情報について、専門的な意見やアドバイスなどをいただけるのではとJIIMA活動から期待しています。

また、電子帳簿保存法の改正については特に先行して取り組んでいくためにも、JIIMAでの活動に期待と興味を持っています。

文書管理市場における将来の展望

富士通四国インフォテックの展望として、新製品についてはJIIMA認証製品として求められる法的要件を常にクリアし、企業としても社会全体の流れに追隨していくことを前提とした上で、

「JIIMAへの入会を機に多くの会員企業の方と交流を深め、文書管理に関する未来についてより知見を深めていきたい」

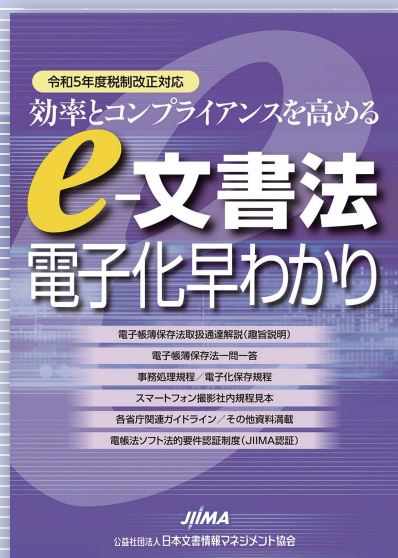
デジタルソリューション統括部
ソーシャルソリューション部
プロジェクト課長
富永 辰徳 氏



お客様の目的に応える本質的なサービスを提供し、さらにその知見を新たな製品に活かしていきたいと考えています。

市場の動向やお客様のニーズをどう捉えていくか、AIやDXと言うキーワードについても、文書管理とファイルストレージ、そもそもこの二つを合体させるという考え方もあります。また、文書管理やファイルストレージとは別の世界で、次世代の文書管理システムとクラウドストレージを作るというパターンもあるかもしれないとメンバー間で検討しています。

最後に、JIIMAの会員企業には競合他社やお客様企業も多く存在しています。先に述べたビジネス連携についても、競合先の企業とも協力し、共に文書管理の発展に取り組む機会があればと考えています。



新刊

令和5年度税制改正対応

効率とコンプライアンスを高める e-文書法 電子化早わかり

参考資料満載！

- 電子帳簿保存法 取扱通達解説（趣旨説明）
- 電子帳簿保存法 一問一答
- 事務処理規程／電子化保存規程
- 電子帳簿保存法 法的要件認証制度（JIIMA認証）

公益社団法人
日本文書情報マネジメント協会
法務委員会 編
令和6年3月25日 発行
B5判 328ページ
ISBN 978-4-88961-022-2
価格 3,300円（税込）

◆ お問い合わせ・お買い求め

公益社団法人 日本文書情報マネジメント協会（JIIMA）

<https://www.jiima.or.jp/> 「JIIMAの活動」→ 出版物・販売物 より

